

第7節 図画工作

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、小学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料の趣旨及び内容に基づき、各学校における図画工作科の指導計画及び学習指導と評価の一体化の充実に資するため、具体的な指導実践事例を挙げ作成したものである。事例の内容については、各学年のバランスとA表現(1)、A表現(2)及びB鑑賞(1)を網羅し、小学校学習指導要領においても重視されている改善事項から六つの視点で取り上げている。

各学校では、児童・学校及び地域の実態に応じて、指導計画が作成されている。これに基づき、〔共通事項〕を意識した学習指導を展開し、児童一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導と評価の一層の充実のために本資料を参考・活用されたい。

2 取り上げた内容

本資料では、以下の視点で事例を取り上げている。

事例1	言語活動の充実を通して、発想や構想の能力を高めた事例 「みんなのあかりが集まって」 ペットボトル等の透明な素材を基にあかりをつくり、作品を集めて展示する。	第4学年	A表現(2) B鑑賞(1)
事例2	中学校との連携を図った事例 「大好きわたしたちの町」 町の大好きな場所を見つめ、そのよさを感じながら見方や表し方を工夫して表す。	第6学年	A表現(2) B鑑賞(1)
事例3	我が国の美術や文化に関する指導の充実を図った事例 「私のまわりの日本探し～ディスカバー・ジャパン～」 身の回りの日本らしさを見付け、そのよさや特徴を話し合う。	第5学年	B鑑賞(1)
事例4	環境教育に関する指導の充実を図った事例 「ちきゅうからの おくりもの」 材料集めを通して自然の材料への関心を高め、体全体を使って表現を楽しむ。	第2学年	A表現(1) B鑑賞(1)
事例5	幼稚園・保育所との連携を図った事例 「えのぐで ぐるぐる」 「どろどろ絵の具」の感触を味わいながら手や指を使って絵に表す。	第1学年	A表現(2) B鑑賞(1)
事例6	家庭や地域社会との連携を図った事例 「感じたことを伝え合おう in まちかど美術館」 街に展示した友人の作品を見て、感じたことを伝え合う。	全学年	B鑑賞(1)

3 活用に当たっての配慮事項

(1) 発達の段階に応じた学習のつながり

各実践事例においては、前学年までの題材や中学校の学習のつながりを具体的な題材名で示し、学習の系統性を明らかにした。この学習で育てたい資質や身に付けたい能力が、これまでの学習の上に計画されていること、また今後の学習に生きてくることを意識して指導計画を作成し、指導することが求められる。児童が経験したことを基に、自分に適した表現方法や材料・用具などを選ぶことができるようにするなど、計画段階から意図的な配慮が必要である。

(2) 学習評価の工夫改善

児童一人一人が意欲的に楽しく学習するためには、児童の思いや願いを教師が十分に理解して指導することが大切である。また、指導に当たっては、育成を図る資質や能力を明らかにし、児童一人一人が、自分の思いで活動を進めることができるようにし、自分らしい表現を認めるようにする必要がある。これらのことから、評価規準を明らかにし、「B評価／おおむね満足できると判断される状況」に達しない児童への指導の手立てを準備したり、試行錯誤・努力している「B評価」の児童への指導の手立てを工夫したりすることが求められる。評価補助簿やデジタルカメラ等による記録を積極的に活用しながら、目標に準拠した評価の実施に努めたい。各実践事例においては、具体的な児童の活動における指導と評価について、学習の段階ごとに追えるようにした。引き出したい児童の気付きや期待する姿、指導の視点などについては、写真や吹き出し等で具体的に示し、活用しやすいものとした。

今後においては、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、指導過程や評価方法を見直ししながら、指導と評価の一体化の充実を図るとともに、評価の妥当性、信頼性の確保に努めたい。

小学校学習指導要領解説図画工作編には、児童一人一人がその特性を生かしながら資質や能力を十分に働かせるために、多様な学習ができるようにすることが明記されている。このことを、児童や学校・地域の実態に応じて実現するには、各校の年間指導計画に位置付けている題材一つ一つを上記の六つの視点で教師自ら見直し、指導方法を工夫していくことが、一つの手立てになる。そのためにも、本資料を熟読し、各校の指導法改善のヒントとしていただきたい。

なお、本資料は学習指導案の作成においても十分に参考になるものであるが、形式については、埼玉県教育委員会のホームページ内「埼玉県小学校教育課程説明会資料・図画工作科」を参照されたい。

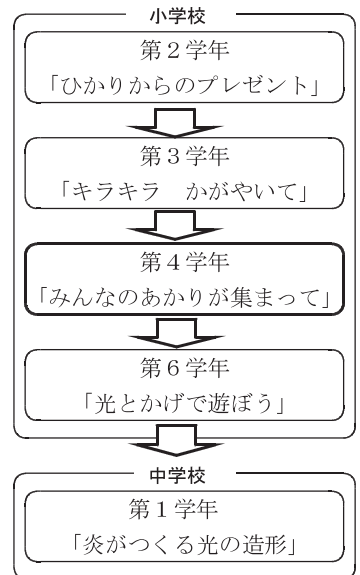
第2 実践事例

事例1 言語活動の充実を通して、発想や構想の能力を高めた事例

材料や色の組合せを考え、工夫してランプをつくる活動の過程で、相互に作品を見合い、話し合う場を設定して言語活動の充実を図り、互いの考えを伝え合い発展させて、表現に生かせるようにした。本活動を通じて、友人とのコミュニケーションを深めながら、あかりの特性を生かした発想や構想の能力の育成を期待する。

- 1 題材名 **みんなのあかりが集まって【第4学年】**
A表現(2)感じたこと、想像したこと、見たことを工作に表す活動
B鑑賞(1)

小学校と中学校の学習のつながり



2 題材について

ランプのあかりを美しく見せるという課題から想像を広げ、創造的な技能を発揮して表現することを目指す題材である。ここでは、ペットボトル等の透明な素材を基にして、色セロハンや花造紙、布切れ等の身近な材料や油性マーカーなど、材料や表現方法を選んでランプをつくる。また、つくったり、みんなの作品を並べてそれぞれの美しさや表現の工夫を感じ取ったりする過程で、友人とのコミュニケーションを深めながら表現を楽しみ、相互にももの見方や感じ方を高め合うことを意図している。

3 目標及び評価規準

- (1) 目標 材料や色の組合せを考え、工夫してランプをつくり、ランプの形やあかりの美しさを楽しむ。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例
 ア 光がものを透過したときの色や映し出される形の変化を感じ取る。
 イ 材料を透過してできる形や色の感じを基に、自分のあかりのイメージをもつ。
- (3) 本題材における評価規準
 (◆「努力を要する」と判断される状況(C)の児童への支援)
 ※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す。

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 材料を透過する光の美しさや面白さからランプをつくることを楽しもうとしている。 鑑 自他の表現のよさや工夫などを味わおうとしている。	<u>材料の形や色の組合せを試しながら、ランプの形や映る光の影や色を考えている。</u>	材料の切り方や組み合わせ方、光を透過する <u>材料の形や色の使い方</u> などを工夫している。	感じたことを話し合いながら、 <u>形や色、表し方や材料による違い</u> などをとらえて、 <u>よさや面白さ</u> を感じ取っている。
◆ 様々な材料に光を当て、楽しむようにする。 ◆ 気に入った作品と一緒に見付けるようにする。	◆ 材料の切り方や組合せの例をいろいろ示す。	◆ 材料の切り方や使い方をいろいろやって見せる。	◆ 形や色など観点を明確にして、そのよさを見付けるようにする。

4 指導計画・評価計画(6時間扱い)

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 集めた材料にライトを当てて、色や光の感じを確かめる。材料による透過光の色や様子について、感じたことや気付いたことを相互に見合いながら話す。それによって、発想を広げ、材料の選び方を考えるようにする。 	○	○			関 行動観察、対話、表情 発 行動観察、対話、表現
2 ペットボトルを思い付いた形に切ったり、切った材料や他の材料を組み合わせたりして、ランプの基本的な形をつくる。 		○	○		発 行動観察、対話、表現 創 行動観察、対話、表現
3 切ったペットボトルの内側や外側に集めた材料をつけて、ランプの様子を確かめながらつくる。 		○	○		発 行動観察、対話、表現 創 行動観察、対話、表現
4 みんなの作品をどのように展示するとよいか、友人と話し合いながら展示し、相互の作品のよさや面白さを感じ取る。 	○			○	関 行動観察、対話、表情 鑑 行動観察、対話、表情、記述

5 児童の活動と指導と評価の実例（6時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価(評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿) T：教師の発言	
	[A評価]：十分満足できると判断される状況・[B評価]：おおむね満足できると判断される状況	
	Kさんの活動	Sさんの活動
ライトの光を通したり反射したりする材料をいろいろ組み合わせて、自分だけのすてきなランプをつくろう。		
1	<p>・Kさんは、いろいろな材料とライトを持って、友人と暗くなる部屋に入った。材料を重ねたり、材料を取り替えたりして、光の色の変化を試していた。</p> <p>→「青に似たような色同士を合わせるときれいになるね。」という友人の気付きに納得し、他の同系色についても試している。また、おはじきや布などをその下に入れると影が映ることに気付いている。</p> <p>[評] 材料を透過する光の美しさや面白さに関心を寄せている。</p> <p>[A評価] (行動観察、対話、表情)</p>	<p>・Sさんは、初めライトの上に色セロハンをのせていたら、Hさんに「その上に綿をのせたらきれいだよ。」と言われ、材料コーナーから綿を持ってきて、試してみた。その光を見て「あかりがやさしくなったね。」と、Hさんに嬉しそうに話しかけていた。</p> <p>→ランプの光り方の違いに気付き、心が動いたことからの確ですてきな言葉が生まれた。</p> <p>[評] 光の透過具合を見ながら材料の使い方や組合せを工夫している。 [A評価] (行動観察、対話、表現)</p>
45分	[指導] 映る光の影の美しさに気付いたことを称賛し、ランプの形を工夫していく意欲をもたせた。	[指導] 光り方が材料の使い方や切り方、組合せで大きく変わることを考えながらつくるよう助言した。
2	<p>第2・3時の教師や他の児童との対話</p> <p>T：ライトの上に材料をのせると、ライトの電池を替えるときに取り出せなくなるね。どうしたらいいだろうね。</p> <p>K：こんな風にライトをペットボトルの底の下に置けばいいんじゃないかな。</p> <p>M：それじゃ、ペットボトルが倒れやすいよ。</p> <p>K：ペットボトルの底も切ったらいいかな。</p> <p>M：ライトを外したら、ライトの上ののせた材料が下に落ちてきちゃうよ。</p> <p>K：このネットの上に材料をのせて、ライトを下に入れるのはどうかな。</p> <p>T：いい方法を考えたね。友達と話し合うと、いい考えが生まれるね。</p>	<p>第2・3時の教師との対話</p> <p>T：ペットボトルを切って花びらのようにした所に何か付けてもいいね。</p> <p>S：キラキラのひもがいいかな。ひもの太さも変えてみようかな。長さも変えてみようかな。</p> <p>T：上に付けるか下に付けるかで、雰囲気が変わるよ。</p> <p>S：どっちがいいかな。上の方がふわふわしているかな。</p>
90分	<p>[評] 3年生での光を反射する材料体験を生かしている。体験を生かすことを大事にしたい。</p>	<p>[評] 教師が児童にかけ言葉は重要である。指示をするのではなく、児童に考えさせるように配慮する。</p>
3	<p>・Kさんは、前時に切ったペットボトルの底を生かしたいと、こだわっていた。いろいろと試しているうちに、光を反射する青のミラーシートを貼って、ライトの光が当たる位置に接着することにした。その位置も実際にライトをつけて確かめながら、きれいに反射する所を見付けていた。</p> <p>→光を反射させることを思い付き、光を当てて試しながら、よい位置を見付けている。</p> <p>[評] 材料の形や色、配置などを試しながら、映る光の影や色を考えている。 [A評価] (行動観察、対話、表現)</p>	<p>・Sさんは、ストローやリボン、ビー玉など、いろいろな材料を使って、まわりの形や色の表現はよくできていた。作品の上の部分空いていたので、何か良い方法がないか考えていた。</p> <p>[指導] 「友達作品を見て参考に見てみたら。」と声をかけた。</p> <p>→友人の作品を見て、話を聞いて、上の部分に違う材質や色の材料を重ねると面白い色になることに気付いたようだ。</p> <p>[評] 材料の切り方や組合せ、光を透過する材料の形や色の使い方などを工夫している。</p>

90分 指導 こだわりから生まれた表現が価値あるものであることを伝え、さらに自分のイメージした光を追求するための工夫を促した。

【A評価】(行動観察、対話、表現)

指導 違う材料や組合せも試しながら、自分のあかりのイメージに近付けることを勧めた。

二つのチームに分かれて、みんなの作品をどのように飾ったらいいか話し合っ、ランプを並べてみよう。

4 ・Kさんのいるチームは活発な話し合いが始まり、Kさんの「壁に光が当たるときれいだから、壁際に椅子を積んで置きたいよ。」という意見で並べ方が決まった。
 ・並べ始めると、「Mさんのを一番上に置いたらいいよ。」「NさんとYさんのを入れ替えた方がいいね。」などと、活発に声をかけ合いながら並べていた。



→ランプを飾りながら光の様子を確認して気付いたことを生かしている。

【評】 感じたことを話し合いながら、形や色、表し方や材料による違いなどをとらえ、個々のよさやあかりを集めた面白さを感じ取っている。



【A評価】(行動観察、対話、表情)

Kさんたちの展示

・Sさんのチームは、みんなで話し合っピラミッドのように椅子を積んで、ランプを並べることにした。一番上段は黄色、2段目は赤・朱色、3段目は青・緑色と色分けする美しさを考えたようだ。
 →並べながら考えを出し合い、自分たちで高さや色分けなどを工夫している。

【評】 感じたことを話し合いながら、形や色、表し方や材料による違いなどをとらえてよさや面白さを感じ取り、より美しい並べ方を探っている。



【A評価】(行動観察、対話、表情、記述)

この題材は、みんなの作品が集まると、様々な色が並んで一層美しいものになる。だから、自分たちで考えを出し合っ並べ方を工夫することに、児童は大変意欲をもって取り組む。これは、鑑賞と表現が融合した意義のある活動であり、大切に扱いたい。



Sさんたちの展示

45分

6 まとめ

(1) 事後の指導

みんなで展示したものを撮影した写真、一人一人のランプをつけて撮影した写真を、作品と一緒に教室に掲示して、事後も作品を鑑賞できるようにした。

(2) 考察

表現を深める上で、友人の作品や活動の様子を見て話し合う言語活動は、とても有効である。また、ものをつくるときに、材料とその組合せなど、様々に試すことが発想を豊かにしたり、創造的な技能を高めたりすることにつながることを再確認できた。

(3) 今後の課題

色への関心が高く、ランプの形を工夫することができなかつた児童が予想よりも多く見られた。形への関心も高めるように指導を改善したい。また、このランプをつくるのに、ペットボトルが中心になってしまった。色々な透明な材料から選んでつくるようにすると、より一層、個々の発想豊かなランプができるのではないかと考える。



Kさんの作品



Sさんの作品

7 授業づくりのヒント

【材料集めは、児童の視覚に訴える】

○ 透明な容器、光を透過する色付きの材料、光を一部透過して影をつくる材料、光を反射する材料など、材料が豊富にあると、児童の発想が豊かになる。材料集めをさせる前に、様々な材料を用意してライトに当てて見せると、児童も理解が深まり、材料集めに関心や意欲をもつだろう。

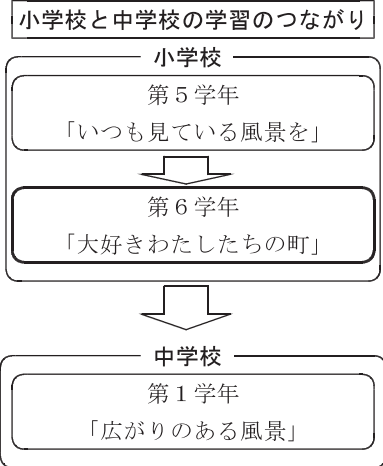
【接着剤の選び方と使い方の指導】

○ ペットボトルなどの透明な材料は、普通の接着剤では、しっかりと付かない。ペットボトル用接着剤や万能接着剤を用意したい。また、接着剤の使い方をしっかり指導してから始めたい。安全な扱いは勿論だが、適切な量を付けること、乾くまでセロハンテープやクリップ、洗濯ばさみなどで押さえるとよいことなども理解させておきたい。

事例2 中学校との連携を図った事例

図画工作科は、中学校の美術科と技術・家庭科の技術分野の両方につながる教科であり、図画工作科において、「自分の表したいことを基に表現する」ことは、美術の「主題を生み出す」ことにつながっていく。
 本実践では、「児童の思い」を大切にしながら、中学校との連携により中学美術教師（ゲストティーチャー）の協力を得る場面を設定し、児童一人一人への適切な支援を図った。

- 1 題材名 **大好きわたしたちの町【第6学年】**
 A表現(2)感じたこと、想像したこと、見たことを絵に表す活動
 B鑑賞(1)



2 題材について

本題材は、慣れ親しんでいる自分の町で、大好きな場所を見つめて絵に表す活動である。いつも目にして身近な場所でも、形や色、光や音、空気やにおいなどを意識してみると、思いがよみがえったり、新しい発見があったりする。

見たままに描くことも一つの表現だが、本題材では、単に写生するのではない。諸感覚を十分に働かせて、自分の町のよさを感じる。そして、話合いやイメージカード、ミニ鑑賞会などを通し、表したいことへの自分の思いを深める。それを一層はっきりと伝えられるように強調したり、描き加えたりしながら、前学年までの経験や技能を生かし、自分らしく工夫して「自分の思い」を表現していく。

また、ゲストティーチャーとして中学美術教師の協力を得て、その専門性を生かし、児童に合った効果的な支援を行う。

3 目標及び評価規準

(1) 目標 大好きな町への自分の思いを工夫して絵に表したり、自他の表現のよさや美しさ、面白さなどを感じ取ったりする。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

ア 自分の感覚や活動を通して、大好きな町の形や色、奥行きなど造形的な特徴をとらえる。

イ 形や色など造形的な特徴を基に、大好きな町への自分のイメージをもつ。

(3) 本題材における評価規準（◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援）

※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 大好きな町への思いを絵に表すことに取り組もうとしている。 鑑 自他の作品のよさや美しさを自分の思いをもって楽しもうとしている。	その場所での思いや感じたことから表したいことを見付けたら、 <u>形や色、構図</u> などを考えている。	<u>自分の表したいことに合わせて、形や色、奥行きなど、</u> 表し方を工夫している。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえ、よさや美しさを感じ取っている。
◆ 大好きな場所、そこでの出来事などを言葉に表していく。 ◆ 作品に込められた友人の思いを聞くなどして語り合わせる。	◆ 教師と一緒にイメージカード見返し、何をどのように表現したいのか、自分の思いを確認できるように問いかける。 ◆ 写真やスケッチを参考に示し、対話する。	◆ 画面構成や視点、線の強弱、強調と省略、加筆等、これまで経験した技法や描画材料を試すように言葉がけをする。	◆ 作品を見ていく視点を明確にし、一緒に鑑賞する。

4 指導計画・評価計画（7時間扱い）

学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 町の風景で自分の好きな場所や思い出の場所について意見を話し合う。	○				関 発言、表情、対話
2 視点や構図、自分の思いや感じたことなどを基に自分が描きたい場面を選ぶ。		○			発 行動観察、発言、表情 対話、表現、記述
3 描きたい場面がよく表れるように、自分の思いに合わせて画面構成を考え、描画材料を選び、工夫して絵に表す。			○		創 行動観察、発言、表情 対話、表現、記述
4 友人と作品を鑑賞し合い、表現の違いやよさを味わう。	○			○	鑑 発言、表情、対話、記述

図画工作

5 児童の活動と評価の実際（7時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価 (評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿) T：教師の発言 GT：ゲストティーチャーの発言 [A評価]：十分満足できると判断される状況・[B評価]：おおむね満足できると判断される状況																	
1	<p style="text-align: center;">H さんの 活 動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 大好きな町を思いを込めて、表現を工夫しながら絵に表そう。 </div> <p>第1時の児童同士の対話</p> <p>H：神怡館へ家族で行ったとき、とても楽しかったな。 K：ぼくも行ったことがあるよ。入り口に、大きくて牛みたいなのがあるんだよね。 H：建物も大きくて、人もたくさん来ていたよ。今度の休みに、また行ってみたいな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>神怡館：正式名称は「埼玉県山西省友好記念館」(しんいかん) 外観は唐代寺院建築風の作りで館内では山西省を中心とした中国の文化を紹介している。</p> </div>	<p style="text-align: center;">M さんの 活 動</p> <p>第1時の教師と児童との対話</p> <p>M：う～ん。好きな場所はいっぱいあるけど…。今まで真剣に考えたことはなかったな。 S：ぼくは、いつも遊びに行っているお気に入りの川があるよ。水は冷たくて気持ちがいいし、魚やカニもいて面白い場所だよ。 T：Sさんのように、目に見えた景色だけでなく、そこでの思いや感じたことも大切に考えてごらん。</p>																
2	 <table border="1" data-bbox="459 770 810 1048"> <tr> <td>選んだ場面</td> <td>神怡館</td> </tr> <tr> <td>選んだ理由 (撮影への思い)</td> <td>はく力があるから</td> </tr> <tr> <td>場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子</td> <td>見あげている 赤色がほとんど たくさん木や草が生えている 観光客がいる。</td> </tr> <tr> <td>自分の思いをどのように表現したいですか？</td> <td>やさしい感じに表現したい</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">イメージカード</p> <p>・自分の描きたい場所に行き、撮影・スケッチする。 →建物全体でなく、近くから見上げた場面を選択、写真と同じ構図で見たままにスケッチしている。</p> <p>[評] 自分の描きたい場面を形や興行きを考えながら表しているの、おおむね満足できると判断する。</p> <p>[B評価] (行動観察、表現、記述)</p> <p>[指導] なぜその場面を選んだのか、理由や訪れたときの思い出、そこで感じたことなどを言葉に表しながら、自分の思いを再確認させていく。</p>	選んだ場面	神怡館	選んだ理由 (撮影への思い)	はく力があるから	場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子	見あげている 赤色がほとんど たくさん木や草が生えている 観光客がいる。	自分の思いをどのように表現したいですか？	やさしい感じに表現したい	 <table border="1" data-bbox="1082 770 1433 1048"> <tr> <td>選んだ場面</td> <td>ぼくの部屋から見える景色</td> </tr> <tr> <td>選んだ理由 (撮影への思い)</td> <td>近所の家々が見え、その後ろには武甲山が見えるのがきれいで好き。</td> </tr> <tr> <td>場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子</td> <td>遠くに武甲山、赤の山の中に青色の武甲山、手前には水田植木、時々近所の子がドッジボールをしているのが見える。(楽しそう)</td> </tr> <tr> <td>自分の思いをどのように表現したいですか？</td> <td>武甲山は角座を並べずいつも見ているままに遠くにうすかいていきたい、山や水の色を工夫して生き生きと表現したい</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">イメージカード→</p> <p>・家の2階の部屋から見える町の風景を撮影する。</p> <p>T：遠くに武甲山が見えるんだね。 M：はい。でも、柱が邪魔なので、絵には入れないように考えています。 →毎日のように何気なく見ている家々の屋根や遠くに見える山々の景色のよさを表現したいと思っている。</p> <p>[評] 自分の選んだ場面に対して美しさを感じ、その思いを伝えるための表現方法を具体的に考えていると判断する。</p> <p>[A評価] (行動観察、対話、記述)</p> <p>[指導] さらに思いを深められるよう、具体的な場面(時)を考えるよう促した。</p>	選んだ場面	ぼくの部屋から見える景色	選んだ理由 (撮影への思い)	近所の家々が見え、その後ろには武甲山が見えるのがきれいで好き。	場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子	遠くに武甲山、赤の山の中に青色の武甲山、手前には水田植木、時々近所の子がドッジボールをしているのが見える。(楽しそう)	自分の思いをどのように表現したいですか？	武甲山は角座を並べずいつも見ているままに遠くにうすかいていきたい、山や水の色を工夫して生き生きと表現したい
選んだ場面	神怡館																	
選んだ理由 (撮影への思い)	はく力があるから																	
場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子	見あげている 赤色がほとんど たくさん木や草が生えている 観光客がいる。																	
自分の思いをどのように表現したいですか？	やさしい感じに表現したい																	
選んだ場面	ぼくの部屋から見える景色																	
選んだ理由 (撮影への思い)	近所の家々が見え、その後ろには武甲山が見えるのがきれいで好き。																	
場面の特徴 ・構図は？ ・色は？ ・とどろきは？ ・興りの目線は？ ・人の様子	遠くに武甲山、赤の山の中に青色の武甲山、手前には水田植木、時々近所の子がドッジボールをしているのが見える。(楽しそう)																	
自分の思いをどのように表現したいですか？	武甲山は角座を並べずいつも見ているままに遠くにうすかいていきたい、山や水の色を工夫して生き生きと表現したい																	
3	<p>・スケッチを基に、構成を決めてから、細かい部分を描いていく。</p> <p>第3時の教師との対話</p> <p>T：細かい壁の模様までとても細かく描けていますね。 H：休日にまた家族と一緒に行って見えました。 T：どうしてこの場所を描きたいと思ったの？ H：前に家族で行った時、楽しかったし、とても迫力のある建物でびっくりしたのと、中から出てくる人たちもとても楽しそうだったからです。 T：大体が描けたら黒板に貼って少し離れた所から見てごらん。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なんだか、寂しい感じがする。人を描き入れてみようかな。</p> </div>  <p>・人物を描き加えた後、色で表し始める。</p>	<p>・写真を見ながらコンテを使い、細かく表現したい部分は、色鉛筆も使って描く。</p> <p>第3時(ミニ鑑賞)の児童同士の対話</p>  <p>S：コンテは優しい感じだね。 R：ティッシュを使ってぼかせば、薄くて透明な感じが出せたよ。 M：遠くの山はこすってぼかしてみようかな。 R：コンテの色を重ねてから、ぼかしても面白いよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>道徳教育の充実の視点</p> <p>毎時間終了後にミニ鑑賞として、自分の絵を見つめたり、友人と絵を見合ったりする時間を数分とり、お互いの絵のよいところを用紙に記入したり話し合ったりした。</p> </div>																

今日の活動で感じたこと・工夫したこと
 建て物の柱を大きく
 書いてはくはだせだ
 けど、さみしい感じが
 するので、今度は、人を
 かき入れたい。



第3時のゲストティーチャーと児童との対話

GT：人がたくさんいてにぎやかで楽しそうですね。

H：人物を描くのが難しかったけど、楽しそうな感じが
 出せてよかったです。あとは、
 建物の迫力が出せるといいけ
 れど、柱をどう塗ったらいい
 のか…。



GT：方向や濃さなど色の塗り方を

工夫していくと、柱の迫力や丸みが出せますよ。

・支援を受け、建物を同じ朱色で塗るのでなく、柱の太
 さや大きさを表すためにパレットに少しずつ、たくさ
 んの色をつくり、丁寧に表す。

→離れて構図を確かめたり、ミニ鑑賞での友人の言葉や
 作品を参考にしたりながら自分の思いを明確にして、
 表現に生かしている。

【評】 自分の思いを表現するため、人物を加えたり、混色を工
 夫したりして、効果的な表現方法を考えていると判断する。

【A評価】（行動観察、対話、表現、記述）

【指導】 「楽しかった」
 という自分の思いを
 表現していることを
 称賛し、他の児童に
 も紹介する。



『大好きな場所神代館』

4 45分 ・形や色、奥行きの工夫や思いなど、様々な視点で友人
 の作品を鑑賞し、「いいね」カードに記入する。

第3時のゲストティーチャーと児童との対話

M：どのような色にしようか悩んでいます。

写真が暗くて…。

GT：Mさんがこの景色を見た
 きはどんな感じがしたの？

M：いつも見ている景色はもっ
 と明るくてきれいなんです。



ボール遊びをしている子どもたちもよく見かけます。

GT：写真にはこだわらなくていいですよ。自分の表現
 したい感じに合わせて色を工夫できるといいですね。

今日の活動で感じたこと・工夫したこと
 武甲山の色がなかなか
 わからずかけなかった。
 でも先生のアドバイスで明
 るさを工夫した。
 家の屋根を遠くはうすく
 近くの屋根はこくできた。



・支援を受け、絵の具も使用し、試し紙を利用して色を
 確かめながら表現する。

→自分の思いを基に、色を工夫してつくり出している。

【評】 明るさを意識して色をつくりだし、自分の思いにあつ
 た表現を工夫しようとしていると判断する。

【A評価】（行動観察、表情、対話、表現、記述）

【指導】 写真にこだわら
 ず、自分の思いにあ
 った色を工夫してい
 ることを称賛し、遊
 んでいる子どもたち
 を入れるとまた違つ
 た表現になることに
 気付かせる。



『ぼくの部屋から見える景色』

・主に色の工夫に視点をあてて、友人の作品を鑑賞し、
 「いいね」カードに記入する。

6 まとめ

(1) 事後の指導

作品は教室や校内に展示した。その際、自分の思いや感じたこと、イメージしたことなどを書き入れたカードを添え、鑑賞する人に、作者の思いが伝わるようにした。また、学年全員の作品を写真にして地図に貼り、「大好きわたしたちの町マップ」をつくり、校内に掲示することで、自分の思いをより多くの人に伝えることもできた。

(2) 考察

各時間の終末にミニ鑑賞の時間を設定した。これにより、児童が自分の表現を振り返るとともに、友人の表現の鑑賞を通して作品の見方や感じ方を広げ、次時の表現に変化が見られた。

児童は中学美術教師との交流にはじめは緊張していたが、自分の表現をほめてもらうなどする中で自信をもち、親しみをもって質問したり、話しかけたりする姿が見られた。「来年度、中学へ進学して、美術を教えてもらうのが楽しみ」と、胸をふくらませた児童も多い。また、中学校側も児童の実態を把握でき、入学後の学習指導や生徒指導等、スムーズな接続が期待できる。



(3) 今後の課題

小学校への中学校教師の派遣が定期的な実施できる体制が整えられるとよい。学校の実態や児童の特性に応じ、題材によって中学校教師が指導に当たったり、生徒の作品を小学校に展示するなどの交流を行ったりすることも考えられる。

7 授業づくりのヒント

- 事前に自分の好きな場所や風景をテーマとした「1分間スピーチ」を朝の会で行い、どうしてその場所や風景が好きなのかを話したり、友人の考えを聞いたりする活動を行い、場面に対する思いを高め、認め合えるよう配慮した。
- 中学美術教師と事前に小・中学校それぞれの児童の実態や授業の様子を話し合う場を設けた。その中で、指導の際には、児童の意志を確かめてから支援することや「児童の思い」を大切に授業の展開をすることを確認した。

事例3 我が国の美術や文化に関する指導の充実を図った事例

「日本らしさ」を記録したカードを比較・分類・整理しながら友人同士で話し合い、形や色、模様などの特徴を基に、自分たちの国の伝統や文化を再発見する活動を行うことで、我が国の美術や文化に関する鑑賞指導の充実を図った。

1 題材名 私のまわりの日本探し～ディスカバー・ジャパン～【第5学年】

B鑑賞(1)親しみのある作品などを鑑賞する活動

2 題材について

本題材はまず、身の回りにある「日本らしいもの」をデジタルカメラで撮影・印刷し、その裏に、日本らしいと感じた理由を記入して、カードをつくる。次に、そのカードを一定期間掲示し、折に触れて紹介することで、自然な鑑賞が生まれるようにする。また、ここで話題となったことを取り上げ、児童の関心や意欲を高め、新たな視点で身の回りにあるものを見直し、「日本らしさ」を見付けられるようにする。最後に、複数のカードを基に、比較・分類・整理をしながら、感じたことや考えたことを友人同士で発表し合う。この活動を通して、身の回りのものを「日本らしさ」という視点で見つめ、その形や色、模様などの特徴から、自分たちの国の伝統や文化を再発見することをねらいとしている。互いに感じ方の違いを認めながら、日本のよさについて考えを深められるといったよさも期待できる。

3 目標及び評価規準

(1) 目標 身の回りのものから日本らしいと感じるものを見付け、その特徴について話し合い、自分たちの国の伝統や文化を感じ取る。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

ア 「日本らしいものカード」を比較・分類・整理する活動を通して、形や色、模様などの造形的な特徴をとらえる。

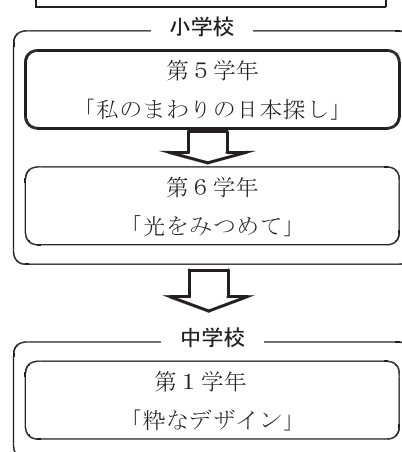
イ 形や色、模様などの造形的な特徴を基に、自分たちの国の伝統や文化についてイメージをもつ。

(3) 本題材における評価規準（◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援）



※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
身の回りの日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしている。	カードを比較・分類・整理しながら、感じたことを話したり、話し合ったりして、日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を感じ取っている。
◆ 身の回りのものから、自分で日本らしいと感じるものを選ぶようにすることで、自分の見方で味わえるようにする。	◆ カード同士を比較し、その形や色、模様などの共通点や相違点を見付けるようにすることで、日本らしい特徴に気付くようにする。

小学校と中学校の学習のつながり



4 指導計画・評価計画（2時間扱い）

学習活動	関	鑑	評価方法
1 身の回りのものから、日本らしいものを見付け、デジタルカメラで撮影する。「形」「色」「模様」などを観点に、日本らしいと感じた理由をカードに記入して掲示する。 	○		関 行動観察、対話、記述
2 作成したカードを、形や色、模様などを観点に比較・分類・関連付けを行いながら、日本らしさについて新たな気付きを発表し合う。 	○	○	関 行動観察 鑑 対話、記述

5 児童の活動と指導と評価の実例（2時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価 (評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿) ※T：教師の発言 [A評価]：十分満足できると判断される状況・[B評価]：おおむね満足できると判断される状況	
	Dさんの活動	Kさんの班（K・L・Mさん）の活動
身の回りのものから、日本らしさを見付けよう。(カードづくり)		
1	<p>・Dさんは、手ぬぐいを撮影し、カードに、日本らしいと感じた理由を記入している。</p> <p>→「金魚がかわいい」、「色がきれい。」と記述している。</p> <p>指導 形や色、模様などを観点に対話を行い、どこが日本らしいと感じたのか、明確になるようにした。</p> <p>・児童同士での話合いの中で、「日本らしいものの中には、同じ形などが何個も繰り返されているものが多いね。」「濃い色が全体的に多いと思います。」と、根拠となる形や色を指で示しながら、具体的に発言している。</p> <p>→日本らしいと感じた理由について、形や色、模様などを観点に比較しながら、具体的に発言している。</p> <p>評 日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を自分らしい見方や感じ方で十分に味わおうとしていると判断する。 [A評価] (記述・対話)</p>	<p>・持ってきたものを班ごとに撮影し、カードに、日本らしさを感じた理由を記入している。</p> <p>→Kさんはカードに、「(手ぬぐいAについて) 富士山がかいてあるから、日本らしいと思う。」「色が青系なのもきれい。」と、記述している。</p> <p>指導 手ぬぐいAを日本らしいと感じた根拠について、形や色などの観点から、さらに具体的に考えてみるように促した。</p> <p>・Lさんは、Kさんのカード(手ぬぐいA)と自分のカード(切り絵A)との共通点に気づき、「これも富士山があつて、日本らしいよ。」と班員に紹介した。</p> <p>→KさんはLさんの意見に納得している。</p> <p>評 具体的な根拠はとらえていないが、日本らしさの造形的な特徴を自分らしい見方や感じ方で味わおうとしていると判断する。 [B評価] (記述・対話)</p>
第1時の教師との対話		
45分	<p>D：私は、この手ぬぐい(手ぬぐいB)が、日本らしいと思います。</p> <p>T：なるほど。では、その手ぬぐいの何が日本らしいと感じたのですか。「形」「色」「模様」などの言葉を使って、答えてみましょう。</p> <p>D：まず、ウサギの形が日本らしいです。色も、紺色をしているところが日本らしいです。</p> <p>T：そうだね。Dさんは、ウサギの形や紺色は、好きですか。(この特徴が、児童にとっての日本のよさにつながるかを確認するために発問した)</p> <p>D：はい、ウサギはかわいくて、好きです。紺色は渋いけれど、まあまあ好きです。</p>	<p>第1時の児童同士の対話</p> <p>・手ぬぐいAや切り絵Aなど、持ってきたものを見て、班で話し合う。</p> <p>K：やっぱり、富士山があると日本らしいね。</p> <p>L：うん、日本の代表的な山だからね。あと、色も日本らしいよ。白、水、紺の3色がきれいだね。</p> <p>M：波も、日本らしいと言えると思うよ。</p> <p>K：どうして、そう思うの。</p> <p>M：だって、日本は海に囲まれているから。</p> <p>K：(納得した様子で) あっ、そうか。</p> <p>L：それにしても、大きい波だね。富士山より大きいよ。大きさに表現しているのかな。</p> <p>K：ぼくの富士山も、「白、水、紺の3色」「大きさ」という点で似ているね。</p> <p>T：そうだね。伝統的な色、形の一部が大きくなっているところも、日本らしさと言っているね。</p>
班ごとにカードを見比べながら、日本らしさについて気付いたことを話し合おう。		
2	<p>・自分のカード(手ぬぐいB)と友人のカード(手ぬぐいC)を比較している。</p> <p>第2時の児童同士の対話</p> <p>D：ハートは、日本らしくないと思うのだけれど…。</p>	<p>・Kさんの班では、自分たちのカード(手ぬぐいA、切り絵A、バンダナA)を比較しながら、話し合っている。</p> <p>第2時の児童同士の対話</p> <p>M：私は、このバンダナが日本らしいと思いました。</p>

E：私は、この紺色が日本らしいと思ったんだよ。ちょっと渋めなところもね。Dさんのウサギの手ぬぐい（手ぬぐいB）だって、色は紺色で同じだよ。
 D：でも、ハートはちょっと…（納得できない様子）
 F：ウサギも、ハートも、同じような形がたくさんあるところが似ているよね。私も、手ぬぐいCは日本らしいとっていいと思う。
 D：色は日本ばいけど、形は洋風ってことだね。

K：どうして？全然日本っぽく思えないな。
 M：私も、始めはそう思っていたけれど、LさんやKさんのカード（手ぬぐいA、切り絵A）を見て、色が白、水、紺の3色があると似ていると思ったんだ。そうしたら、模様様の緩やかなカーブが何だか波のように見えてきたんだ。

L：では、この小さな三角形は、富士山のようなだね。

K：（手ぬぐいDのカードを見て。これも、白、水、紺の3色だよ。

M：少ない色で、シンプルなどころも日本らしいと言えるのかもね。



←手ぬぐいD

道徳教育の充実の視点

日本らしさについての明確な分類を行うことが目的ではない。相反する意見の中にもその児童なりの考えを認めていくようにする。〇〇については、同じだねと、観点を基に共通点を見付けるようにすることで、自他の相違を認めていく。

→互いに見方や感じ方の違いこそあれ、日本らしい形や色などの造形的な特徴を話し合っている。

指導 同じもの（手ぬぐいC）を鑑賞しながら、それぞれ違う視点で考えているDさんとEさんについて、どちらも理由が述べられていることを称賛した。また、「西洋のハートの形を取り入れ、日本の伝統色である紺色を使って、日本風にアレンジしたものとも、考えられますね。」と、新たな見方も提案した。

45 **評** 日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を感じ取っていると判断する。 **[B評価]**（対話）

→互いに見方や感じ方の違いこそあれ、日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を話し合っている。さらに、新たな気づきを基にして、日本らしさについての考えを再構築している。

指導 日本らしい色の組合せを観点にして話し合っていることを称賛した。また、「日本は昔から四季があり、自然のもつ様々な色の変化を感じ、生活に取り入れてきたこと」を伝えた。さらに、「紺、青、白の色の組合せは、皆さんが言うように、富士山や夏の海から昔の日本人が取り入れたのかもしれないね。」と、児童の考えを後押しした。

評 日本らしい形や色、模様などの造形的な特徴を十分に感じ取っていると判断する。 **[A評価]**（対話）

まとめ 季節や身近な自然のもつ形や色、模様などのよさを取り入れ、生活に生かしながら大切にしてきたのです。

6 まとめ

(1) 事後の指導

新たな見方で身の回りのものを見直すきっかけとなるように、カードは、授業後も継続して展示した。

(2) 考察

第1時と第2時は連続して行わずに、2週間ほど間を空けて行うようすることで、すぐに見付けられない児童も、他の児童の考えを参考にしながら、自分なりの考えをもつことができるようになった。一方、教師は、日本らしくないものについても、資料を用意しておくことよい。児童に提示し、比較させることによって、新たな気づきを生むきっかけとなる。

(3) 今後の課題

今回は、普段家庭で使っているハンカチや手ぬぐいなどを持参するようにし、日本らしいものと日本らしくないものが混在する中で導入を行った。今後は、活動のきっかけとして何が適切か、また、日本らしさを見付ける観点として何を示すと効果的かをさらに工夫していく必要があると感じた。

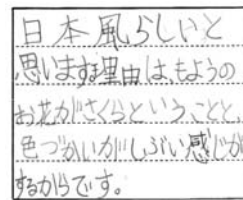
7 授業づくりのヒント

【比較・分類・関連付けの活動を活性化する工夫】

- 全体での導入において、「形」「色」「模様」など、観点を明確にして説明するとともに、目立つように板書しておき、意識化を図るようになるとよい。
- 児童同士の活動については、カードの分類項目を、児童が感じたことを基にして作成してもよい。例えば、「動物がいる」「色が渋い」「富士山がある」等である。

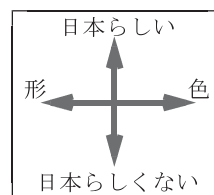


←カードを比較・分類する



↑カードの裏の記述

児童が作成した分類項目例→



①マトリックスで

色が渋いもの
金魚や花火など、図が日本らしいもの

②分類項目（考え方）を児童が記述して

事例4 環境教育に関する指導の充実を図った事例

自分が気に入った自然の材料を集め、並べる、積む、つなぐ、巻く、編む、組む、つるすなど、集めた材料や活動場所から思い付いたことに取り組む活動で、自然の材料のよさや美しさに気付く場面を設定し、自然を大切にしようとする心情を高め、環境教育に関する指導の充実を図った。本活動を通じて、自然の材料の形や色などから発想したり、つくりだした形から新しく発想を広げたり、体全体を働かせて楽しくつくったりする造形的な創造活動の基礎的な能力の育成を期待する。

1 題材名 ちきゅうからの おくりもの【第2学年】
A表現(1)自然の材料を基に造形遊びをする活動、B鑑賞(1)

2 題材について

児童が身の回りの自然のよさや美しさに興味や関心をもてるよう、朝や帰りの会で木々や草花の様子について話をする。その後、生活科と関連を図り、校内や地域の公園などで自然の材料集めをする。枝、葉、木の実などの形や色などについて児童と対話しながら集め、自然の材料のよさや美しさへの関心を高めていく。

学習に当たっては、活動内容や使う材料が同じ児童同士でグループになって取り組むようにする。互いに表したい思いや願いを共感し、友人の表現のよさに気づき、自分の表現に自信をもてるようにする。

実際の展開では、活動する児童と積極的にかかわり、児童が表したいことを明確にもっているか確認する。これにより、児童が自分で集めた自然の材料に対する思いをさらに見つめ、自然の材料のよさや美しさをより深く感じ取れるようにする。活動場所は、周りの木々や草花などの自然環境と関わった活動が期待できる校内の木々がある場所や学校近くの公園などの屋外とする。

活動をデジタルカメラで記録し、表現したものが画像で残るようにする。活動後は、集めた材料や使用した材料をそれぞれ元の状態に戻し、環境へ配慮する。

3 目標及び評価規準

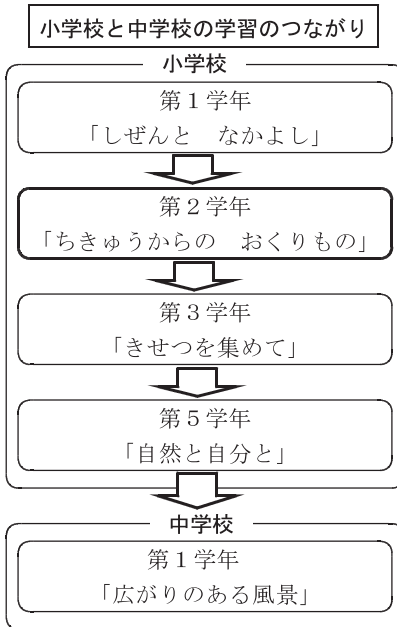
- (1) 目標 自然の材料の形や色を基に、それらを並べたり、積んだり、つないでりするなどして、体全体を使って楽しんだり、自然の材料のよさや美しさに気づき、自他の活動のよさや工夫などを感じたりする。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例
 - ア 自分の感覚や活動を通して、自然の材料の形や色のよさなどをとらえる。
 - イ 自然の材料の形や色などを基に自分の活動のイメージをもつ。
- (3) 本題材における評価規準（◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援）

※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 自然の材料に関心をもって集め、その形や色などから並べる、積む、つなぐなど、思いのままに造形的な活動を楽しもうとしている。 鑑 自他の活動や表現を見ることを思いのままに楽しもうとしている。	集めた <u>自然の材料の形や色、材質</u> などから、並べたり、積んだり、つないでりする活動を思い付いたり、考えたりしている。	体全体の感覚を働かせて自然の材料にかかわり、それらの並べ方、積み方、つなぎ方などを工夫している。	集めた <u>自然の材料のよさや美しさ</u> に気づき、自他の活動のよさや工夫などを感じている。
◆ 気に入った活動が見付かるまで、材料を手にとって一緒に活動する。 ◆ 自他の表現の好きなどところを見付けるように促す。	◆ 材料の形や色や質感などのよさや美しさに着目した活動の例を示す。	◆ 並べる、積む、つなぐなどのいろいろな表し方を一緒に行う。	◆ 材料のよさや美しさや活動の工夫のポイントの例を示す。

4 指導計画・評価計画（4時間扱い）






学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
1 校内の木々のある場所や学校の近くの公園で、自然の葉っぱや枝、木の実などの形や色などに関心をもって集める。	○				関 行動観察、対話、表情
2 集めた葉っぱや枝、木の実などを使って、活動を想起する。		○			発 発言、対話、表情
3 並べる、積む、つなぐ、巻く、編む、組む、つるす、身に付けるなど、集めた材料や活動場所から思い付いた活動をする。		○			発 対話、行動観察、表情
4 自分たちが表したものに名前を付けるなどして活動を振り返ったり、他のグループが表現したもののよさに気付いたりする。	○			○	関 発言、表情、対話 鑑 表情、発言、記述



図画工作

5 児童の活動と指導と評価の実際（4時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価 (評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿) T：教師の発言 A評価 ：十分満足できると判断される状況・ B評価 ：おおむね満足できると判断される状況	
	Mさん・Rさん・Yさんの活動	Sさん・Kさんの活動
きれいな形や色をした、すてきな「ちきゅうからのおくりもの」をたくさん集めてみよう！		
1 90分	<p>・学校近隣の公園で形や色がきれいなどんぐりを拾っていると、枝についているものにも気付き、集めている。</p> <p>・教室前の中庭で、いろいろな色合いに紅葉した桜の落ち葉の中から、気に入った色のものを集めている。</p> <p>→3人ともどんぐりや落ち葉の形や色に注目し、こだわりをもって集めている。</p> <p>評 自然の材料の形や色などに十分関心をもって集めていると判断する。 [A評価]（行動観察、対話）</p> <p>指導 自然の材料の形や色のよさに気付き、こだわりながら集めているよさを称賛した。</p>	<p>・どんぐりを集めた後、ススキが生えている所に行き、穂の柔らかな感触を手で確かめながら集めていた。</p> <p>・学校内の観察池に生えている蒲の穂の形や色の面白さに気付き、集めていた。</p> <p>→2人ともススキや蒲の穂の形や色などの美しさや面白さに気付きながら集めている。</p> <p>評 自然の材料の形や色などに関心をもって集めていると判断する。 [B評価]（行動観察、対話）</p> <p>指導 集めた材料のどこが気に入ったのか質問して、自然の材料の形や色のよさについて意識させる。</p>
葉っぱや枝、木の実などの「ちきゅうからのおくりもの」でどんなことができるかな？		
2 20分	<p>・3人は、白い紙の上に載せると自然の材料がきれいに見えると思い、教室から画用紙を持ってきた。</p> <p>T：何をしているの。</p> <p>R：う〜ん・・・。</p> <p>T：並べ方をいろいろ試すと面白い形ができるかも。</p> <p>Y：たくさん集めると、にぎやかな感じになったよ。</p> <p>M：私は、ブランコで遊んでいる形ができたよ。</p> <p>T：楽しい形ができてきたね。</p> <p>→3人とも教師の声かけをきっかけに、集めた自然の材料を並べながら自分が表したいものを見つけた。</p> <p>評 集めた自然の材料の形や並べ方から、表したいことを思い付いていると判断する。 [B評価]（発言、対話、表情）</p> <p>指導 3人の活動がつながるとさらに面白い活動になりそうなことを示唆する。</p>	<p>・教師が用意したつるを手に取り、何かづくり始めた。</p> <p>K：長いけれど、どうすればいいかな。切ろうかな。</p> <p>T：ちょうどよい大きさにぐるぐる巻いたらどう。</p> <p>K：つるの輪ができた。これにススキをつけたら面白そう。</p> <p>S：いちょうの葉を集めると花みたいになるよ。これもつけてみようかな。</p> <p>→自然の材料でできそうなことを見付けている。</p> <p>評 集めた自然の材料の形などから活動を思い付いたり考えたりしていると判断する。 [B評価]（発言、対話、表情）</p> <p>指導 他にどんな材料の付け足し方があるか問いかけ、活動が発展するようにする。</p>
集めた「ちきゅうからのおくりもの」で、何ができるかな？ 思い付いたことをどんどん試してみよう！		
3	<p>T：せっかく3人でやっているのに、別々に活動しているのはもったいないね。</p> <p>R：じゃあ、3人ともくっつけちゃおうか。</p> <p>Y・M：そうしよう。</p>	<p>S：木にぶら下げてみたよ。いちょうの葉っぱでつくった花がうまく付かないな・・・。</p> <p>T：モールで巻き付けてみるのはどう。</p>

60分	 <p>・中庭の木と木に麻紐を結んでおいた環境を見付けて… M：ここに、葉っぱが付いた枝をぶら下げてみようよ。 R：面白そう。 Y：蒲の穂もつるしてみたらきれいかも。</p> <p>道徳教育の充実の視点 互いの表したい思いを認め合ったり、協力して表現したりする態度を大事にする。</p> <p>R：さっきつくった作品もこの下に並べようよ。 →よりよいものにするために、3人が互いに協力して表す方法を工夫して表現している。</p> <p>評 体全体の感覚を働かせて自然の材料にかかわり、思い付いたことを協力して表していると判断する。 [A評価] (行動観察、対話、表情)</p>	<p>S：うまく付いた。この方法で他の材料も巻き付けてみよう。</p>  <p>K：ぼくもこの木につり下げてみたよ。 ・偶然、作品と看板が触れる音が鳴ったのを聞いて… K：これを引っ張ると、面白い音がするぞ。</p> <p>S：Kさんのとわたしのが、この木と一緒にあったね。 →一本の木に飾ることを通して、2人の表現が一つの表現になってきている。</p> <p>評 自然の材料の形や色や材質などから思い付いたことや考えたりしたことを、自分らしい方法で表していると判断する。 [A評価] (行動観察、対話、表情)</p> 
自分たちや友だちが表したものを互いに見てみよう！ どんなすてきなものが見付かるかな？		
10分	<p>4</p> <p>・自分たちが表現したものが一番よく見せられる場所を選んで作品を飾り、互いに作品を紹介しながら鑑賞していた。</p> <p>道徳教育の充実の視点 他のグループの表現への思いをしっかりと聞くことを通して、他者を思いやりよさを認め合う態度を育てる。</p>	 

6 まとめ

(1) 事後の指導

残った自然の材料は、集めてきた元の場所に戻すなど、環境を大切にすることを忘れない。

それぞれのグループが表現したもので作品として残せるものについては、廊下等に展示して、どんな思いで表現したのか、活動後にも共感し合えるようにした。残せないものは、デジタルカメラで撮影しておき、後日プリントアウトして廊下等に掲示した。

(2) 考察

授業後に書いた児童の日記に、「集めた自然の材料の形や色、質感から感じるよさや美しさ」「材料の特徴を生かして表現したものに思いや喜び」などがたくさん書いてあった。さらに、展示したものを大切に扱っている様子などからも、児童は自然の材料の魅力を感じ取っていたように思える。これらのことから、児童の自然環境を大切にしようとする心も育成できたと考える。

(3) 今後の課題

自分の考えで画用紙の上に自然の材料を載せて表現する児童がいた。表現したものを作品化して残せる長所もあるが、画用紙の大きさに影響を受け、表現する範囲を自ら限定してしまう短所もあった。自然環境と一体感をもてるよう屋外で活動するようにしたメリットを生かすためには、最初から画用紙を使わせることは避けた方がよいと考える。



【1F ホールの掲示板に】

7 授業づくりのヒント

【材料集めについて】

- 児童が意欲的に材料集めをするために、自然の材料のよさや美しさを感じ取る場の設定が重要である。今回は、生活科と関連させて学校近くの公園に出かけ、児童がじっくり時間をかけて自然の材料に触れられるようにした。どこにどんな材料があるか予め確認しておき、児童がいろいろな種類の自然の材料のよさや美しさに気付く道順を設定した。校内の木々や草花についても同様に調べておき、児童の材料集めへの関心を高める適切な情報を提示した。

【切断・接合の仕方について】

- 児童が活動への思いを実現するためには、教師の技術面での指導や対応が大切である。とりわけ「切断」「接合」の仕方は、安全面からもとても重要となる。正しい扱い方が徹底できている用具は児童が自由に使用できるようにするが、初めて扱う用具などは教師と一緒に使わせながら正しく安全に扱う方法を徹底するようにする。



事例5 幼稚園・保育所との連携を図った事例

幼稚園・保育所での造形体験を通して育まれた素直な感性や表現意欲を生かしながら、手などの感覚を十分に働かせ、「どろどろ絵の具」で思いのままに表す活動を楽しむことで、図画工作の学習に対する意欲の向上を図った。

1 題材名 えのぐで ぐるぐる【第1学年】

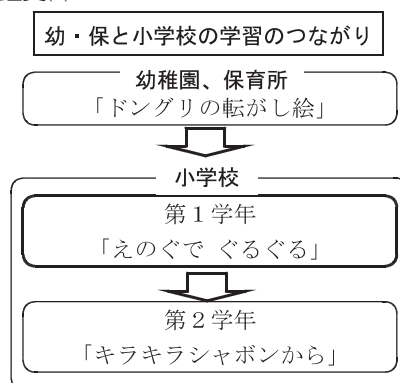
A表現(2)感じたこと、想像したこと、見たことを絵に表す活動、B鑑賞(1)

2 題材について

本題材は、液体粘土に絵の具（共同絵の具、ポスターカラー）を混ぜた「どろどろ絵の具」の感触を味わいながら手や指を使ってかくことを楽しむ題材である。

幼稚園や保育所の「表現」の領域では、「感じたことや考えたこと、自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」として、「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」といったねらいで、造形表現活動が実施されている。そこでは、様々な素材に触れ、体全体で働きかけたりしながら、素直に想像の世界を楽しむ経験が積み重ねられている。

入学当初の児童には、幼稚園や保育所で養った造形への意欲を素直に発揮して、表現したり鑑賞したりすることを楽しむ姿が見られるが、中には、環境の変化に戸惑い、緊張したり萎縮したりしてのびのびと表現できない児童もいる。出身の幼稚園や保育所による経験の差もある。図工学習のスタートに当たっては、幼稚園教育の基本として「幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものである」とされている点を考慮しながら、安心して自分を発揮できるような環境を整え、「図工大好き！」という思いをどの児童も味わえるようにすることが肝要となる。そのためにも、体全体を使って素材と関わり、楽しむこと、A表現（1）（造形遊び）の要素も加味し、「遊びの特性」を生かしながら心身を解放し、新しい友人と一緒に思いのままに感じたり表したりすることを大切にしたい。



3 目標及び評価規準

(1) 目標 絵の具の感触を体全体で感じ、形や色などから思い付いたことを絵に表して楽しむ。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

ア 自分の感覚や活動を通して、どろどろ絵の具から生まれる、形や色、肌触りなどをとらえる。

イ 形や色、肌触りなどを基に、自分のイメージをもつ。

(3) 本題材における評価規準（◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援）

※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>表 絵の具の感触を体全体で楽しみながら、思いのままに取り組もうとしている。</p> <p>鑑 自分や友人の作品のよさや活動の面白さを思いのままに楽しもうとしている。</p>	<p>体全体の感覚を働かせながら、<u>形や色、肌触りなどを感じ取り、表したいことを思い付いている。</u></p>	<p>指や手のひらでかいたり塗ったりしながら、<u>絵の具の跡、色の違いなどを生かし、表し方を工夫している。</u></p>	<p>自分や友人の作品や活動から、<u>面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。</u></p>
<p>◆ 汚れても大丈夫なことを示し、安心して取り組むことや友人と一緒に楽しく活動することを促す。</p> <p>◆ 友人や教師と対話しながら作品を見るようにする。</p>	<p>◆ 対話を通して、形や色、肌触りなどの感じに目を向けるようにする。</p> <p>◆ 友人と互に見合いながらいろいろなイメージを思い浮かべられるようにする。</p>	<p>◆ 指や手の使い方によって、違った感じの絵の具の跡になる面白さや色を選ぶ、混ぜるなどの活動を促し、色の面白さに目を向けるようにする。</p>	<p>◆ 自分の作品の気に入ったところを話すようにしたり、気に入った友人の作品を選び、面白さや楽しさを友人と話し合ったりする。</p>

4 指導計画・評価計画（4時間扱い）

学習活動	関				発				創				鑑				評価方法
	関	発	創	鑑	関	発	創	鑑	関	発	創	鑑	関	発	創	鑑	
1 「どろどろ絵の具」をつくり、好きな色を1色選び、その感触を楽しみながら、16切りの画用紙に試しにかいてみる。	○					○											関 行動観察、対話、表現 発 行動観察、対話、表現
2 好きな色画用紙（四つ切り）を選び、いろいろな色を使って、指や手のひらでかいたり塗ったりしながら、かきたいものをイメージし、工夫して表す。片付けと併せて、大きな紙に、あまった「どろどろ絵の具」を使って、友人と一緒に、思いのままに表す。							○										創 行動観察、対話、表現
3 画面に表れた形や色、絵の具の跡を手がかりに、クレヨンやパスを使って、自分のかきたいイメージを絵に表す。							○										発 行動観察、対話、表現
4 互いの作品を見合い、表現の面白さや楽しさを味わい伝え合う。	○												○				関 行動観察、対話、記述 鑑 行動観察、対話、記述

5 児童の活動と指導と評価の実際（4時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価 (評・指導：各段階の評価・指導、→：見取った姿)	
	A評価：十分満足できると判断される状況・B評価：おおむね満足できると判断される状況	
	Mさんの活動	Hさんの活動
<p>絵の具と液体粘土を混ぜて「どろどろ絵の具」をつくろう。 好きな色をカップに取って、小さな画用紙に、手でかいてみよう。どんな感じがするかな。</p>		
1 10分	<ul style="list-style-type: none"> スプーンを使って、かき混ぜながら、「ホットケーキをつくっているみたいで、楽しい！」と言い、感触を確かめている。 黄色の絵の具を選んで、指を左右に往復させながら、勢いのある形をかく。  <p>手掛ける段階から、それぞれの個性が出る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 黄色の絵の具をカップに取り、指でハートや丸の形をかく。  <p>指導 ウォーミングアップとして絵の具をさわったり、絵の具を小さな紙に指でつけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「冷たくて、気持ちいい。」「とろとろしていて、変な感じ。」「面白いものが、かけそうだよ。」と、わくわくしている。
<p>好きな色の画用紙を選ぼう。 他の色も使って、どんどん手や指でかいてみよう。どんな絵が出てくるか、楽しみだね。</p>		
2 80分	<ul style="list-style-type: none"> 赤の色画用紙を選ぶ。黄色、青、白、混ぜてつくった色も使って、指先でかいている。 やってるうちに、色々なかき方を思い付いている。カップから絵の具を垂らしたり、カップで型押ししたりしている。 活動が、だんだん大胆になっていく。最後には、両手をバットの中に入れて全体全体で画面に挑む姿が見られた。 「爪を立てて引っ搔くと赤い線がかけるぞ」と気付く。それを見ていた周りの友人にも「面白い」と言われて、得意になっている。     <p>評 絵の具の跡、色の違いなどを生かし、表し方を工夫している。 [A評価] (行動観察、対話、表現)</p> <p>指導 その子なりの試みや発想を称賛することで、さらに意欲を高めるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 色づくりに夢中になり、「不思議、不思議、こんな色ができた。」と見せ合っている。「どうやってつくったの。私もつくってみようかな。」と友人の活動にも興味もっている。 エメラルド色の画用紙を選んだ。ピンク、青、黄、白、そして、つくった緑の絵の具を自分のカップに入れ、机の上に並べてかき始めた。 「何だか滑り台みたい。プールで遊んでいるところに見えてきたよ。」と友人に話しかけている。   <p>指導 友人との交流を通して、学習への意欲を高める。</p> <p>指導 対話を通して、児童の思いやイメージを共有させる。</p> <p>評 形や色をよく感じ取りながら、はずむような楽しいイメージを画面に表している。 [B評価] (行動観察、対話、表現)</p> <p>指導 形や色などのよさや面白さへの気づきを大切に見取り、称賛する。</p> 
	<ul style="list-style-type: none"> 大きな紙に残った絵の具を使って、友人と一緒に大胆に表している。  <p>道徳教育の充実の視点 友人となかよく造形遊びを行うことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友人のつくった色も使い、手形を押して楽しんでいる。  <p>道徳教育の充実の視点 後片付けも、自分たちの手で協力して行うようにする。</p>

何に見えるかな。どんなお話が思い浮かぶかな。クレヨンでかきたして、すてきな絵にしあげよう。

3



・画面の色やかいた跡から、嵐の海をイメージして画面の下部に水色を塗り、普段から大好きな船をかき始める。



→新たなイメージが浮かび、色にも気を遣いながら、人物をかき始める。

指導 柔軟な発想を受け止め、イメージの変化を楽しませるようにする。

指導 絵の具の形や色などから、自分なりの場面やお話のイメージがもてるよう、友人や教師と積極的に対話を行うようにする。

評 魚たちもかき加え、形や色を感じ取り、表したいことを思い付いている。

〔A評価〕（行動観察、対話、表現）



『あらしにかこまれたふね』

評 形や色の快いリズムから、楽しいお話が生まれている。

〔A評価〕（行動観察、対話、表現）



『ようせいサーカス』

45分

みんなの絵を並べて、展覧会をしよう。絵を見て友達とおしゃべりしよう。お気に入りの絵を見付けよう。

4

指導 友人と対話しながら全員の絵を鑑賞し、お気に入りの作品を選んで、感想を文章で表すようにする。



・「Iさんの絵は、ゆきだるまが、とても楽しいです。」

評 友人の作品から、楽しさを感じている。

〔B評価〕（記述）

道徳教育の充実の視点

友人の表現のよさを見付けることで、互いの違いやよさに目を向けていくようにした。

・「嵐に船が囲まれてすごく面白いです。本当みたいだなあ。Mさんは、つめで絵をかいていたのでびっくり。」

評 友人の作品や活動から、様々な視点で面白さに気付いている。

〔A評価〕（記述）

45分

6 まとめ

(1) 事後の指導

児童の表現の特性や個性を把握して今後の指導に生かすようにし、作品は、掲示して日常的に鑑賞ができるようにした。

(2) 考察

体全体の感覚を働かせる活動や遊びの要素を取り入れた活動は、幼稚園・保育所から小学校に入ったばかりの児童が、無理なく楽しく力を発揮できる題材となる。混色の不思議、形や色などを基に、イメージをもつ楽しさなども味わうことができた。苦手意識をもっていた児童が、「今日は、図工があるから、楽しみに登校した」という声も保護者から聞くことができた。1年生では何より、「図工大好き」という思いをもてるようにしていきたい。

(3) 今後の課題

幼稚園や保育所との交流の機会を意識的に活用し、お互いの実践を見合ったり、意見交換をしながら、より幼・保と小学校との相互理解と連携を深めていくことが大切である。



幼稚園との交流会「いっしょにあそぼう」(生活科)

7 授業づくりのヒント

- 液体粘土を使う場合、どの液体粘土が適しているかについてあらかじめ試しておくことよい。分量は1人当たり150ml程度を用意した。感触を楽しませるためにも、絵の具と混ぜる活動から取り組ませたい。
- ポスターカラーは、赤、青、黄の三原色を使い、ポスターカラーを混ぜない白と併せて、バットに4色のどろどろ絵の具をつくるようにした。各自は、自分のカップに取り分け、自由に混色を楽しめるようにした。
- 混色を繰り返すと濁色になるので、乾燥後、仕上げの段階で後から鮮やかな色も使えるようにしておくことよい。
- 小さな画用紙などで試した後、感触などについて話し合う時間をとると、素材とのかかわりがより深まる。
- 発展として、片付けと併せて、大きな紙に友人と一緒に絵に表す造形遊び的な活動も取り入れることができる。
- 薄手の画用紙は適さない。今回は、何色かの色画用紙を用意し、選んで使うようにした。乾燥すると液体粘土が収縮して用紙が歪む場合もあるので、黄ボール紙や白ボール紙、段ボールなどを使うことも考えられる。

事例6 家庭や地域社会との連携を図った事例

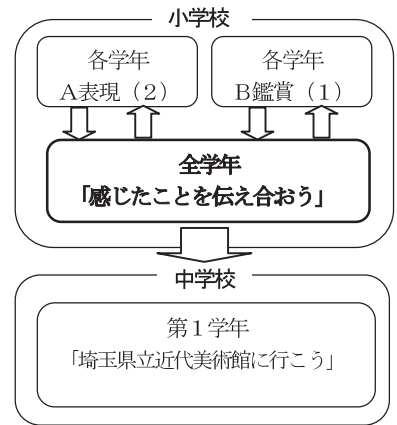
本題材は、児童が図画工作の時間に表現した作品を自分たちが生活する街に展示し、鑑賞する活動である。異学年によるグループ編成、友人・教師・地域の方々が共に伝え合う場づくりを工夫し、互いに感じたことを伝え合うことによる鑑賞の広がりを図った。本活動を通じて、感じたことを伝え合う面白さを味わいながら、人や場所との関係を広げ、鑑賞の能力を高めていくことを期待する。

**1 題材名 感じたことを伝え合おう in まちかど美術館【全学年】
B鑑賞(1)**

小学校と中学校の学習のつながり

2 題材について

本題材は、街に展示した友人の作品を見て、感じたことを伝え合う活動である。この活動の特色は、作品を街に展示すること、伝え合うグループを工夫して鑑賞することの二つである。街に展示することで、児童の作品が多くの人々に鑑賞され児童の表現意欲を高めることにつながる。また、様々な学年の作品を並べて展示することにより、それぞれの学年の表現のよさを感じ取ることができる。伝え合うグループを工夫することは、学年や学級の鑑賞活動とは異なる様々な見方や感じ方を得ることができる。さらに、鑑賞グループの輪に加わった地域の方々の声が、児童の新たな気付きや表現意欲の向上を呼び起こすことになる。作品を通して人と人とのつながりをつくるとともに、鑑賞の能力を高める実践である。



3 目標及び評価規準

- (1) 目標 作品を見て感じたことを伝え合いながら、形や色、表現の工夫などをとらえ、よさや面白さを感じ取る。
- (2) 本題材における〔共通事項〕例
 - ア 自分の感覚や友人と一緒に作品を鑑賞する活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえる。
 - イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) 本題材における評価規準（◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援）
※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す



造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自分や友人の作品のよさや面白さを自分の思いで楽しもうとしている。	自分や友人の作品から感じたことを伝え合いながら、 <u>形や色、表現の工夫</u> などをとらえ、よさや面白さを感じ取っている。
◆ 自分から伝えることが難しい児童には、形や色等について質問し、思いを伝えるきっかけをつくる。	◆ <u>形や色、表現の工夫</u> 等、具体的な観点を示し、自分なりに感じ取ることができるようにする。

4 指導計画・評価計画（2時間扱い）

学習活動	関	鑑	評価方法
（作品は、事前に街に展示しておく） 街に展示された友人の作品を見て、感じたことを伝え合う。	○	○	関 表情、行動観察 鑑 対話、記述

5 児童の活動と指導と評価の実際（2時間扱い）

学習活動	児童の具体的な姿(・)と評価(評・指導)：各段階の評価・指導、→：見取った姿 T：教師の発言 X：地域の方々の言葉	
	A評価：十分満足できると判断される状況・B評価：おおむね満足できると判断される状況	
	Mさんの活動	Kさんの活動
『感じたことを伝え合おう』		
	異学年の集団編成。伝え合う中で、互いを尊重し、認め合う気持ちを育む。	
		地域の方が加わり、感じたことを伝え合いながら一緒に鑑賞を楽しむ中で、新たな見方を感じ取る。

街に展示された友人の作品を見て、 感じたことを伝え合う。	児童同士の対話 N：こいのぼりが、遠くに飛んでいくように見える。 L：どうして、そう思うの。 N：しっぽが、くねっとしているから。 M：わたしもそう思う。だって、この目が「あっちに行こう」と言っているようだから。 B：どこが、そう見えるの。 M：この目の形がだよ。あと、この黒と白の色をよく見ていると、そんな感じがする。 O：本当だ。ぼくもそう思う。向こうにこいのぼりの友達がいる、そこに行こうとしているのかもしれない。 L：こっちのこいのぼりは、目が違うね。 →はじめに、作品全体の雰囲気を感じ取っている。さらに友人と伝え合う中で、部分にも注目している。 評 友人の意見を受け止め、共感しながらも、その根拠となる目の形や色に着目し、自分なりに感じ取っていると判断する。 [A評価] (行動観察、発言) 指導 対話を通して、一層作品のよさや面白さを感じ取るができるように、友人の他の視点について伝える。	地域の方々が参加した対話 D：この絵は、なんでこんな形にしたのかな。 E：そうだよ。ぼくだったら、こうするのにな。 X：おじさんは、この絵を見ていると優しい気持ちになるから好きなんだ。 K：ぼくも好き。 X：どんなところが好きなのかな。 K：虹の色がいっぱいあるところ。虹の滑り台も面白そう。 F：私もそこがいいと思う。虹の下の方が上よりも太くなっていて、絵から飛び出してくるような感じがする。 K：ほんとか。こっちに来そうだ。 →作品の全体的な雰囲気を自分なりに感じ取っているが、形や色等の観点から見ることによる見方の広がりが少ない。 評 友人同士では、なかなか話すことができなかったが、地域の方々の意見に安心し、主体的に対話し始めた。地域の方々の視点から、新たな発見をし、見ることを楽しんでいると判断する。 [B評価] (行動観察、発言) 指導 自信をもって自分が感じたことを伝えることができるように助言する。また、全体や部分の形や色に着目することができるよう助言する。
	90分	

6 まとめ

(1) 事後の指導

授業時数等の関係から、校外に出て活動する時間を多く取ることは難しい。そこで、年間を通じて二つの取組を行っている。

ア メッセージポストの活用

本校は、校内展示コーナーに全児童の作品を常時展示している。その作品を見て感じたことをメッセージとして記入し、ポストに入れることで、作者である本人に届くシステムをつくっている。休み時間や教室移動の際に見た作品に惹かれ、友人と一緒にメッセージを書きに来る児童もいる。そのメッセージを通して、作者はまた改めて自分の作品（表現）を見つめ直すことへとつながっている。

イ 校内ギャラリートークの実施

本事例で紹介した実践を、朝の活動や休み時間を利用し、年間3回校内で実施している。この活動には、地域の幼稚園・保育所も加わり、見ること・感じること・伝え合うことを楽しんでいる。

(2) 考察

児童は、友人と伝え合う活動を通して、自分だけでは気付くことができなかった見方や感じ方を学ぶことができた。また、鑑賞の輪に地域の方々が加わり、地域の方々からいただいた温かい言葉は、次の表現活動への意欲向上につながった。言語活動を充実させた鑑賞活動が、見ることへの関心やイメージの広がり、言語による表現力の向上等、全教育活動につながる力となった。

右は、作品を街に展示したことに對する3年生児童の感想カードである。本児童は、「お店の人は、にこにこして見てくれた。嬉しくて家族みんなでもた絵を見に行っただ」と言っている。作品を地域に展示することは、児童にとって喜びであり、誇りとなった。そして「見て欲しい」「思いを伝えたい」気持ちが高まった。地域の方々からは、「見ていて、温かい気持ちになる」「ずっと展示して欲しい」「全ての子ども作品から思いが伝わってくる」「自分の子ども時代を思い出す」等の声が多く聞かれた。また、ある店では、指さしながら展示された児童の作品を嬉しそうに眺める夫婦の姿が見られた。自分たちが生活する街に作品を展示し、鑑賞することは、人と人をつなげ、地域や保護者との絆を深めることへとつながった。そして、何よりも児童自身が他者を認め、地域に育つかけがえのない自分を強く意識するようになった。



7 授業づくりのヒント

地域に作品を展示する際には、いくつかの準備が必要である。実施に当たって事前に準備したことは、以下の通りである。

- 商店主等への活動の趣旨説明
- 展示に対する協力をお願い
- 作品展示用の台紙
- 感想記入カード
- 作品展示用カバー
- 図画工作科における児童の学びを伝える通信

その他にも、保護者・地域の方々とともに児童の絵の見方（表現の素晴らしさ）を知るためのギャラリートークを実施した。その結果、本活動は、児童・保護者・地域の方々にとって楽しみな実践となって継続している。